

PTCA は 1977 年にスイスの Gruntzig らによって初めて臨床応用され、1981 年アメリカで爆発的に普及し始めた。日本には 1981 年延吉らにより導入された。以降、全国的に広がった。1988 年 ACC/AHA によりガイドラインが作製されたが、その後 New device により PCI に対する考え方はどんどん進歩してきた。

POBA 単独による血管拡張には再狭窄以外に SAT という大きな限界があった。小倉記念病院のデータによると当時の初回 POBA の成績は成功率 88%、SAT7.5%、緊急 CABGO.6%、院内死亡 0.91%と報告された。

本邦において New device が登場したのは 1993 年であった。DCA, に続き P-S ステン트가登場した。特にステントの登場はその後の PCI を一変させた。そして改良されたステントは次々に開発された。PCI の安全性は飛躍的にたかまり、現在心臓外科がない施設でも日常的に行われるようになった。1997 年の本邦における待機的 PCI の成績は成功率 93%、AMI1.7%、緊急 CABGO.5%、院内死亡 0.6%であった。